
最強の盾使い（ガードナー）

博麗まんじゅう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最強の盾使い（ガードナー）

【Nコード】

N9817X

【作者名】

博麗まんじゅう

【あらすじ】

20xx年、数人の天才により異常なまでに発展した科学。それは科学という枠組みから遂に魔法の域へと足を踏み入れていた。その威力は現代兵器をしのぎ、数人の魔法使いで一国の軍と戦争が出来るという。各国がこぞって人材を捜し求め、魔法使いを養成した。魔法の加速する時代の到来である。そんな時、彼、十六夜悠人^{いざよひゆうと}はその能力故にとある魔法学園に半強制的に入学することになる。そこで彼を待ち受ける数々の事件達。彼はそれを見、果たして何を思うのだろうか？

プロローグ（前書き）

知らない人ははじめまして。自分を知ってる方はおはこんばんにちは、博麗まんじゅうです。

最初に注意しとくと、タイトルに最強とか着いてますが、主人公はチートじゃないです。

プロローグ

「…まったく、やれやれだな」

自嘲気味に呟いた彼の声は小さな声にも関わらず、はっきりとその場に響いた。その声に初めほどの勢いは無く、今ではまるで壊れかけのラジオのように途切れてしまいそうだった。

身体は既に満身創痍。服のあちこちは破れ、体に刻まれた傷は数え切れないほど。頬を流れる血の雫がポタリと地に落ちてシミを作る。

だが、爛々と光る琥珀色の瞳にまだ諦めは無い。彼は依然として確かな戦意を持っており、その心は未だ折れてはいなかった。しかし、もはや使える体力があるのかどうかも彼にとっては疑わしい。

戦闘を初めてどのくらいの間が経ったのだと言うのだろうか？

共に戦ってくれていた仲間には既に床に倒れ、意識を失っている。幸い致命傷は負っていないようだが、それでも全身は傷だらけ。致命傷は負ってないとはいえ、そのまま放っておくと危険な状態だ。

今、この戦場に立つのは彼ともう一人、年端もいかぬ少女であった。

「まだ続けるのかの？」

無邪気な顔で彼女は笑う。その瞳にあるのはただ愉悦のみ。その感情は獲物を狩る捕食者のそれとなんら変わり無い。

彼女はこの戦いを心の底から楽しんでる。そう分かった瞬間、彼は言いようもない震えを感じた。

分かっていた。初めから敵わないことなど。それでも彼はやらなければならなかった。

やらなければ、自分がやられる。彼が諦めればそれは…。

頭を振ってそれを否定する。

- - そう考えれば終わりだ、そこからは一步も先へ進めない。

彼は恐れる心を無理矢理に押さえ付け、喉元まで出かかった悲鳴を飲み込む。

しかし、そんな彼を嘲笑うかのように、少女の周囲に現れる無数の光弾。一つ一つが桁違いに大きく、彼など容易く飲み込み消し去ってしまうだろう。

それでも引くわけにはいかなかった。立ち向かえ。そう自身の心を叱咤し、地を踏み締める。

「ふむ、あくまでわらわに逆らうか。それもまた良し」

少女はゆっくりと右手を天に掲げた。彼の身体に緊張が走る。

ニヤリと笑う少女の心に慈悲などあるはずもなく、その全てが須らく必殺。失敗すれば命は無い、まさに命懸けの状態。

そうであるにも関わらず彼は軽く口端を上げる。ああ、本当にどうしようもない時は笑いが漏れるのだな、と本当にどうでもいいことを思いながら、右手を前に突き出した。

イメージするのは最初にして終わりのイメージ。初めて自分が作り出した至高にして最強の…。

「では、さよならだ。少年よ」

そう告げると共に振り下ろされる少女の腕。そして彼は無数の光に包まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9817x/>

最強の盾使い（ガードナー）

2011年10月28日08時14分発行